

GLOCOM Future Technology Management Forum (2013年度)

## 日本のスマート社会を構想する

ラウンドテーブル1

新しいエネルギー・エコシステムの設計

話題提供

持続可能性と豊かさの両立

2013年9月4日

所 眞理雄

(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所

# 我々の究極の目標

- 環境・社会(世界)に対して
  - 平和な社会(世界)をつくる
  - 自由・平等・博愛の社会(世界)をつくる
  - 持続可能で豊かな社会(世界)をつくる
- 自分自身に対して
  - 楽しい人生を送る
  - 充実した人生を送る
  - 自己実現する
- 人生の目標(と優先順位)は人それぞれ異なる

# 目標達成のための手段

- イノベーション
  - 資源
    - 人的資源、自然資源
  - 資本
    - 人的資本、自然資本、社会資本
- 経済成長(量)から経済発展(質)へ
  - GNPからGNHへ
  - 成長無き発展は可能か?

たとえば、Herman Daly, Beyond Growth: the Economics of Sustainable Development, Beacon Press, 1997 (ハーマン・デイリー、持続可能な発展の経済学、新田・大森訳、みすず書房、2005)

# 時代背景(1)

- 第2次世界大戦(1945)
  - 環境問題・地球温暖化(1970年ローマクラブ)
  - ベルリンの壁崩壊(1989)と資本主義の加速
  - PC(1980)・インターネット(1990)・モバイル(2000)
  - グローバリゼーションの加速(1990)
  - リーマンショック(2008)
  - 福島原発事故(2011)
- 
- 我々は地域住民であると同時に
  - 小さな地球に住む地球市民

# 時代背景(2)

- 外部不経済化による企業利益の最大化
  - 国民負担の増加
- 巨大な世界企業
  - 独占禁止法の不適用
- 過大な資本の蓄積
  - 実経済の100倍？
- 更なる利益への誘惑
  - 先取りによる未来の負債の増加
- トービン税はEU外にも適応可能か？ 有効に機能するか？
- 独占禁止法などをグローバルに執行することの是非？
- 国と企業の関係はどうなってゆくのか？
- 地球国家は可能か？ メリットはあるのか？

# 何を基準として物事を考え、 どのように進めるか？

- 世界のほぼ万人が合理的と考える価値基準はあるか？
  - 持続可能性（Sustainability）
    - 生命、種 (継続性、Continuity)
    - 自然環境、資源 (再生可能性、Renewability)
- 実施方法はあるのか？
  - 還元主義を超えたオープンシステムサイエンス的思考
    - 外部関係性の重視
  - 情報公開と合意に基づく実施
    - 民主主義の基本
  - 理解力増進のための学習支援・教育

# 新しいエネルギー・エコシステムの設計

- 物質的な豊かさの源泉は水、食料、エネルギー
  - これらの相互関連をエコシステムとして考える
- 如何にアプローチすべきか？
  - 先進諸国（欧、米、スカンジナビア諸国、日本など）、急成長諸国（中国、インド、ブラジルなど）、発展途上国のアプローチと知見
  - それらに基づき、具体的な方策（制度）を考える
    - グローバルな視点でどう考えるか
    - 中国・インド
    - 発展途上国のために
    - 日本
  - 技術がサポートできることは何か？

本日を含め全5回のラウンドテーブルにおきまして、  
活発な(かつ思慮深い)議論をよろしくお願いします。